

当国雲岸寺の奥に仙頂和尚の山居の跡あり。

長く中に空間を！

豎横の五尺にたぬ草の庵結ぶもくや

雨なかりせば、松の炭く岩に書きつけ

一般

段級

【奥の細道】

下野国（栃木県）にある雲巖寺の奥に、私（芭蕉）の禅師である仙頂和尚が山籠りした跡があった。仙頂和尚は『縦横が五尺にも足りない狭い草の庵（小屋）の中でも、雨を凌ぐために庵を結ぶ執着を捨て切れないのが悔しい（仏教の説く無一物・乞食の解脱の心境にまで達することができない）』という意味の自戒の歌を、松の炭で近くの岩に書き付けたものだ。

